

今週の  
みことば

「復活の喜び～なぜ泣いているのですか～」

(イザヤ書55章1～11節)

「そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」(11)

(ヨハネの福音書20章1～18節)

「イエスは彼女に言われた。『なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。』彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。『あなたがあの方運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。』」(15)

今日のメッセージ要旨

◎私たちにあって愛し、愛されている存在の方を失った悲しみと絶望ほど深く辛いことはありません。そこから救い出される道はあるのでしょうか？

◎イザヤ書55章の主題は「神様の恵みの招き」です。神様の御心は、ご自分の子どもたちが渇き、空腹であるのを黙ってみていられない。「渇いている者」「金のない者」は長い間困難な状況におかれ、物質的にも精神的にも飢えと渇きに喘いでいる人々を指します。人間はそのような状況におかれると、神様の招きの言葉と呼びかけに耳を傾けようとせず、虚しい思いに陥る。その人々に神様は「わたしに聞き従い、良い物を食べよ」「耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば生きる」。「わたしはとこしえの契約、愛の契約を結ぶ」と招かれた。

◎預言者イザヤも民に「主を求めよ」「主に帰れ」と呼びかけ、悪を離れて神様に立ち返ることを勧めたのです。人間は神様に反逆している時、神様の祝福に与り得ないと考えてしまいます。しかし神様は「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」「わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」と約束されたのです。荒れ野でも神様は祝福に満ちた場所に変え、結実させるとの約束なのです。

◎ヨハネの福音書20章は「復活」の出来事の記事です(並行記事、マタイ28章、マルコ16章、ルカ24章)。イエス・キリストの復活は「週の初めの日」に起こったのです。マグダラのマリヤは空虚な墓を見て、ペテロとイエス様の愛された弟子の所に告げたのです。二人の弟子は行ってその空虚な墓を確認したまま家に帰りましたが、マグダラのマリヤは墓の側で泣いていたのです。イエス様を「どこに置いたのか捜していた」マリヤに、イエス様は「後方から」すべてを知った上で「マリヤ」と個人的に名前を呼ばれたのです。

マリヤの悲しみは「墓の中」(死の支配であり、絶望以外に何も無い)にイエス様を見いだそうとしたことです。しかし、イエス様は後方から(180度違った立場から)語りかけられたのです。そこには永遠のいのちがあり、愛と希望が待っていたのです。マリヤは復活されたイエス様に「ラボニ(先生)」と呼びかけましたが、弟子たちには「私は主にお目にかかりました」とイエス様を「主」と告白したのです。マリヤはイエス様を世話するものから、主を証しするものへと変えられたのです。私たちも現実ばかりに心を奪われ、泣き悲しむ歩みから、主イエス様を信じ、主イエス様を証しする者とされたい。

ラザロの墓の前で涙を流された主イエス様は、「われらの涙のもとを読みたもう」御方であられます(新聖歌210番)。その御方が復活され「なぜ泣いているのですか」と語りかけてくださっているのです。この復活の主を見上げましょう。